（様式第1号）

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票（評価対象年度：令和　7　年度）

施　設　の　名　称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指 定 管 理 者 の 名 称	（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
施 設 所 管 部 課 （ 室 ）	環境生活部　自然保護課

1．当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期　　間	管理形態	指定管理者（管理受託者）の名称	摘 要
平成21年　4月　～　平成26年　3月	指定管理者	（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成26年　4月　～　平成31年　3月	指定管理者	（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
令和　6年　4月　～　令和11年　3月	指定管理者	（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	

※ 管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入

2．現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名　称	公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
	所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2
指　定　期　間	令和　6年　4月　1日　～　令和11年　3月31日　（5か年）	
募　集　方　法	□　公募　　☑　非公募	

3．施設の概要【施設所管課記入】

施　設　の　名　称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	
所　在　地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2	
設　置　年　月	平成　3年　1月	
根　拠　条　例　等	サンクチュアリセンター条例	
設　置　目　的	伊豆沼・内沼を調査・研究し保全対策を確立し、人間と野生動植物とが共存する優れた自然環境としてのサンクチュアリ（聖域）を創造するとともに県民の自然保護思想の高揚と自然と調和した活力ある地域づくりを推進するため設置されました。	
施　設　の　内　容	敷　地　面　積	3，850　㎡
	構　　造	鉄筋コンクリート造り　2階建て
	内　　容	1階　829．87㎡ （事務室、研究室、研修室、ボランティアルーム） 2階　563．62㎡ （会議室、展示室、軽食喫茶室、観察展望室）
開　館　（　所　）　日	◇ 月曜日（休日を除く）を除く日 ◇ 休日の翌日（日曜日，土曜日，1月2日を除く。）を除く日 ◇ 12月29日から12月31日を除く日	
開　館　（　所　）　時　間	午前9時00分　～　午後4時30分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業　務　の　範　囲	1　宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター管理業務　①建物等の管理　②物品の使用及び管理　③施設の共用　④入館の拒否等　⑤損傷等の届け出　⑥展示物等の管理、保全及び維持管理　⑦事故防止と発生時の処理　⑧再委託業務の管理　⑨施設の管理運営に関する環境配慮⑩事業報告	
利　用　料　金　制	採 用 の 有 無	**□ 有　■ 無**
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和 7年度) (A)	前 年 度 (令和 6年度) (B)	評価対象年度 (令和 7年度) ©		
開館(所)日数	300 日	304 日	290 日	96.7%	95.4%
延べ利用者数	30,000 人	36,161 人	35,788 人	119.3%	99.0%

※ 対象施設が複数ある場合は施設ごとに記入

(2) 延べ利用者数の内訳

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和 7年度) (A)	前 年 度 (令和 6年度) (B)	評価対象年度 (令和 7年度) (C)		
	30,000 人	36,161 人	35,788 人	119.3%	99.0%
合　　計	30,000 人	36,161 人	35,788 人	119.3%	99.0%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入　　(単位:千円、%)

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和 7年度) (A)	前 年 度 (令和 6年度) (B)	評価対象年度 (令和 7年度) (C)		
県指定管理料	33,880	32,906	33,880	100.0%	103.0%
利用料金収入				-	-
その他	1,421	0	1,421	100.0%	-
収 入 計 (a)	35,301	32,906	35,301	100.0%	107.3%

(2) 支出

人件費	22,072	19,346	21,957	99.5%	113.5%
施設管理費	13,229	13,279	13,802	104.3%	103.9%
事業運営費				-	-
その他	0	0	0	-	-
支 出 計 (b)	35,301	32,625	35,759	101.3%	109.6%

(3) 収支

収　支 (c)=(a)-(b)	0	281	-458	-	-163.0%
前期繰越収支差額				-	-
次期繰越収支差額				-	-

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲

6. 評価対象年度（令和　7年度）の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

主な視点	項　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
経済性	施設・設備の維持管理業務の実施	1　日常的に施設及び設備関係、展示品の見回り点検を行い、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。 2　施設管理に関する法令を遵守し、清掃業務・消防設備保守点検・空調設備保守点検・重油タンク清掃業務・貯水槽清掃業務・エレベーター保守点検・機械警備業務については、指名競争入札により委託業者を選定し、適切な管理の下、経費節減に努めた。	法令を遵守し定められた点検・検査を行うとともに、職員が常時、建物内及び敷地内を巡回し、盗難、汚損及びゴミの不法投棄等の防止を行った。	A	法令に従い、適切な契約方式により管理施設の保守点検がなされている。また、館内展示物や設備機器についても適正に管理されており、館内の清掃も行き届いている。	A
	収支実績	上記「5. 施設利用実績」のとおり	経費削減を実施し、粗餐の範囲内での執行を行った。	A	限られた予算の中で、適正に各事業が執行されている。また、協賛企業からの支援を有効に活用し、事業運営されている。	A
効率性	管理運営体制	指定管理者として、「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用を図るとともに、破損箇所等の早期発見と保守に努め、経費節減等も図りながら、適切に保全・管理した。	運営に関しては、少ない人数で総合的施策の推進と教育的効果の向上を図りながら、施設備品の適切な管理と利用入館者への接客サービスに意を用い、自然保護・動物愛護思想普及に相乗的効果があがるよう運営管理を行った。	A	施設管理及び各種事業等に少人数ながら鋭意取り組んでおり、適正に管理運営されている。	A
	人員体制	正規　4 人　非正規　4 人				
	運営業務（ソフト事業等）の実施	別記1のとおり	各研究員が研究内容をシンポジウム及び学会で発表している事により、沼の保全対策は、全国から注目されている。	S	各研究員が、伊豆沼、内沼に生息・生育する鳥類、魚類、水生植物等に関する研究を鋭意行っており、学会等においてその成果を発表するなど積極的に情報発信をしている。これらの研究成果を踏まえた沼の保全対策は、全国的に高く評価されている。	S
有効性	利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり	上半期の入館者数は、8月はハスが回復傾向にあったため、9月に全館照明のオールLED工事で3週間休館したが、昨年度より246人増加となった。 また、下半期は1月週末の積雪等で道路状況が悪く、全体的に減となり、年間で373人減の昨年入館者数の98%となった。	A	工事休館したことにより、入館者は昨年度と比較して373人減となっている。開館日数290日、1日の平均入館者数でみると約124人と、昨年度を上回っていたため、開館時の各種取組による成果と考えられ、高く評価できる。	A
	利用者サービスの向上	入館者のニーズに応えるべく、館内にフリーWiFiを設置、パンフレットを独自で作成し配布を行い好評を得ている。情報の発信は、ホームページ、伊豆沼･内沼サンクチュアリセンターニュースの毎月発行、さらにはマスコミなどを通じ、水鳥やブラックバス等の情報をはじめ調査・研究などを積極的に情報発信している。 研修室は、管理運営に支障のない限り各種会合等に開放し、有効活用を図った。	地元はもとより県内、県外からの多く方々が来館する。職員が、積極的に来館者への対応を行っており、ニーズを的確に把握しながら、サービスの向上に努めている。	A	財団ホームページで、積極的に情報発信しており、また、独自にセンターニュースを毎月発行しているほか、観光客の利便性を高めるため、観光地図等を取りそろえ、来館者のニーズに的確に対応している。	A
	利用者の苦情、要望等の把握とその反映	館内に設置する「ご意見ｶｰﾄﾞ」の意見の内容を分析し、誠実に対応した。接遇にも十分留意しながら対応し、トラブルの未然防止に努めた。施設利用者の利便性と入館者増加に向け、館内展示物の配置を工夫するなど、観葉植物、花鉢を設置し、うるおいのある空間づくりに努めた。	来館者からの意見を参考に、職員が展示物やパネル等を作成し、沼の四季にあわせた館内展示を工夫している。	A	来館者の意見を大切にし、伊豆沼・内沼の自然の紹介や、研究成果を分かりやすく展示するなど、常に運営改善に取り組んでおり、高く評価できる。	A
その他	県民の平等利用	センターの利用及び各種自主事業への参加については、県内、県外を問わず公平平等とし、誰にでも気軽に利用できる様にした。また、調査・研究の成果については、一般にも広く公表し、その成果を社会に還元した。	事業のPR及び調査研究の成果は、県サンクチュアリセンターが展示施設だけではなく、伊豆沼・内沼の環境保全対策及び調査研究機関である事を広く県内外に浸透させつつある。	A	各種の自主事業について広く周知しており、その結果申込数の増につながっている。また、調査・研究成果は、学会や誌面を通じ広く公表され、環境学習時にも活用しており、高く評価できる。	A
	安全対策	9月に築館消防署において、職員全員で心肺蘇生の講習会を行った。また、消防法で定められている防火管理者等の有資格者を配置して、職員を対象とした訓練を実施するなど、火災予防について万全な管理に努めた。	消防設備等の点検において不具合等があった場合すぐに修繕を行っている。常に危機的意識を持ち、大きな災害に備えている。	A	消防設備点検等の安全管理について、適正に対応されている。また、緊急時の連絡体制も整っており、心肺蘇生法講習を全員が受講する等、安全意識向上が図られており、高く評価できる。	A

主な視点	項　　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
その他	個人情報の保護	1．情報公開については、県の情報公開条例は勿論のこと、財団情報公開規程により、適切に対応することになっている。 2．個人情報保護については、県の個人情報保護条例を遵守し、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」や「自然体験講座」、その他センターで得られた個人情報は、個人の権利利益の侵害の防止を図るため、慎重かつ適正に取り扱っ	令和7年度の情報公開の要請はなし。	A	実施事業で得られた個人情報を、適正に取り扱っていた。	A
	自主事業の実施	別記2のとおり	自主事業は、調査・研究の最新の成果を反映させていることから、参加者から好評を得ており、リピーターが多く参加している。	S	伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストは、35回と回を重ね、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさと、自然保護の重要性を広く伝えている。また、様々な自然体験講座を開催し、自然保護思想の普及に努めており、高く評価できる。	A
	その他の取組	絵画展の開催、民間企業が沼周辺で行うボランティア活動に協力を行い、自然保護思想の普及活動にも力を入れた。また、学校や各種団体から依頼された講師派遣・自然観察会や出前講座などの実施に積極的に対応した。	地域に密着した事業を展開するため、受託事業以外の取り組みも、重要視される。近年、環境への関心が高まってきており、小中学校・企業等からも伊豆沼・内沼出前講座の依頼があり、環境をテーマとした講話を行っている。今後も地元との連携を密にし、事業を推進したい。	S	受託事業以外の各種取組について、他団体と連携し積極的に進められており、高く評価できる。	A
総合評価			サンクチュアリセンターは展示施設の他、調査・研究及び沼の保全活動の拠点として、適切な管理に努めている。伊豆沼・内沼の環境保全への取組は、環境問題への意識の高まりもあり、多くの県民から注目され、高い評価を得ている。	S	県の環境保全対策の代表的な実践地として、沼の生態系保全等に関する研究成果を広く社会に還元している。また、環境教育施設としての役割も十分果たしており、高く評価できる。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準（目安）】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準（目安）】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7．施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項　　目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	入館者が9月に全館照明のLED化工事で休館したにもかかわらず、年間35，788人の入館者数は、自然環境の保全に対する県民の意識の高まりが感じられる。 令和8年度は、受水槽工事業務が予定されており、早期工事完了に向け自然保護課と協議を行い最大限の支援・協力を行う。	建物設備の老朽化が目立ってきている中で、個別施設計画に則り、順次修繕していく。

別記１【③運営業務(ソフト事業等)の実施】

研　究　業　績

○原著論文（査読付学術雑誌）

第一著者

1. Shimada, T., Tajiri, H. & Fukuda, K. 2025. Lotus vegetation withered by flooding in summe r reduced the Whooper Swan (*Cygnus cygnus*) wintering population in Lake Izunuma-Uchin uma, Japan. Waterbirds 47: 1-7.
2. Shimada, T., Konishi, K., Li, G., Shi, G., Higuchi, H. 2025. Swan Project promotes citizen s cience initiative through a public bird migration tracking. Avian Research. doi.org/10.1016/j.a vrs.2025.100298.
3. Fujimoto, Y., Takahashi, Y., Hayami, H., Nomura, M., Yokoyama, J., Shimada, T. andNishim ura, O. 2025. Restoring Lakeshore Vegetation in the Face of Hysteresis: A Water-Level and Sediment-Based Strategy for Shallow Lakes. Waters. doi.org/10.3390/w17121760
4. 藤本泰文・速水裕樹．2025．伊豆沼・内沼における水生植物の現状と対策―現代型湿生遷移に対応する湖沼管理の実践―．用水と廃水．67：736-740.

共著論文

1. 井口和信・嶋田哲郎．2025．富良野を渡りの中継地としたハクチョウの行動記録．富良野市博物館報告 6: 11-20.
2. Gu, D., Xie, Y., Shimada, T., Higuchi, H., Solovyeva, D., Bysykatova-Harmey, I., Liu, Y., Zhang, J., Zhao, Q., Cao, L. & Fox, A.D. 2025. Reconciling Bergmann's rule throughout the annual cycle in two congeneric large-bodied migratory waterbirds, Avian Resear ch, https://doi.org/10.1016/ j.avrs.2025.100263.
3. Fan Zhao, Decong Xu, Zhiyan Ren, Xinlei Shao, Qingyang Wu, Yongying Liu, Jiaqi Wang, Jia n Song, Yijia Chen, Guochen Zhang, Yasufumi Fujimoto, Tetsuo Shimada, Katsunori Mizuno. 2025. Mamba-based super-resolution and semi-supervised YOLOv10 for freshwater mussel de tection using acoustic video camera: A case study at Lake Izunuma, Japan. Ecological Informa tics. doi.org/10.1016/j.ecoinf.2025.103324.
4. Q, Zhao., F, Meng., L, Cao., J, Zhang., D, Gu., N, Batbayar., S. B. Rozenfeld., D. V. Solovye va., I. Bysykatova-Harmey, I. Damba., T. Shimada., H. Lee., Y. Xie. & A. D. Fox. 2025. Asse ssing exchange rates of individuals between biogeographical populations of East Asian goose a nd swan species. Ibis, https://doi.org/10.1111/ibi.70019
5. Watanabe, Kidai, Nguyen-Nhu, T., Takano, S., Mori, D., & Fujimoto, Y. ("Data Augment ation for Enhanced Fish Detection in Lake Environments: Affine Transformations, Neural Fil ters, SinGAN." Animals: an Open Access Journal from MDPI 15.10 (2025): 1466.
6. 藤本泰文・速水裕樹．2025．伊豆沼・内沼における水生植物の現状と対策―現代型湿生遷移に対応する湖沼管理の実践―．用水と廃水．67：736-740.

○学会発表・シンポジウム等

1. 嶋田哲郎・小西敢・李国政・史国栋・樋口広芳．2025．スワンプロジェクト―鳥類の渡り追跡公開と市民科学．日本鳥学会札幌大会，札幌（口頭発表）
2. 嶋田哲郎．2025．伊豆沼・内沼におけるエコツアーの現状．日本鳥学会札幌大会，札幌（自由　集会）

3．藤本泰文．2025．取り組み20年。ボランティアと確立した『伊豆沼式ブラックバス低密度管理』．外来生物法施行 20 年シンポジウム 水辺の外来生物対策 20 年 その成果と課題．法政　大学市ヶ谷キャンパス，東京．

〇委員会委員・非常勤講師など（主なもの）

（嶋田研究室長）

1．希少野生動植物保存推進員（環境省）
2．重要生態系監視地域モニタリング推進事業（ガンカモ類調査）検討委員（環境省）
3．宮城県生物多様性地域戦略検討委員（宮城県）
4．伊豆沼・内沼自然再生協議会委員（宮城県）
5．栗原市環境審議会副会長（栗原市）
6．栗原市栗駒山麓ジオパーク部会長合同会議会長、保護・保全部会長（栗原市）
7．日本鳥学会副会長、代議員、理事（日本鳥学会）

（藤本上席主任研究員）

1．希少野生動植物保存推進員(環境省)
2．宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員（宮城県）
3．宮城県自然環境保全審議会専門委員（宮城県）
4．遠野市山口集落伝統文化的景観保存調査委員（遠野市）
5．旧品井沼ため池群自然再生推進委員（環境省）
6．日本魚類学会自然保護委員（日本魚類学会）
7．流域環境保全ネットワーク副理事
8．宮城大学非常勤講師

別記２【④自主事業の実施】

①自然体験講座の開催

自然保護思想の普及啓発活動の一環として、４０周年の特別イベントも含め、季節ごとのテーマを設定し、１０回の体験講座を開催した。

回　数	テ　ー　マ	開催日	参加者数
第１回	伊豆沼水辺探検隊	６月２１日	２０名
第２回	水辺の生き物採集と観察会	７月　５日	１０名
第３回	昆虫採集と標本作り	７月２６日	１５名
第４回	伊豆沼漁師体験＆植物観察会	８月　９日	１８名
第５回	伊豆沼研究室	９月２０日	１３名
第６回	伊豆沼漁師体験	１０月　５日	１２名
第７回	ガンの飛び立ち観察会＆ラムサール湿地見学ツアー	１１月　８日	２０名
第８回	ガンの飛び立ち観察会＆ラムサール湿地見学ツアー	１１月２３日	１８名
第９回	ガンの飛び立ち観察会＆コクガン観察会ツアー	１２月１４日	１６名
第10回	ガンの飛び立ち観察会＆コクガン観察会ツアー	１月１１日	２９名
	合　　計		１７１名

※　予算内訳　収入　財団　　計　３５万円
　　支出　保険料、委託費　　計　３５万円
　　（経費が少ない理由は、財団職員が講師を行っているため。）

②第３５回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの開催

３５回の写真展は、ラムサール４０周年記念事業として、大崎市・南三陸町から協賛をいただき撮影範囲を蕪栗沼・周辺水田、化女沼、志津川湾と広げてラムサール条約指定登録湿地の重要性と環境保全の大切さをアピールした。

また、２月、３月に県サンクチュアリセンターで全作品の展示を行った。

（出品者１０１名、内入選者１９名）

＜第３４回写真展巡回展示箇所（入選作品のみ）＞

登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	令和７年　５月　２日～　５月３１日
登米市役所１階ロビー	令和７年　６月　４日～　６月３０日
栗原市役所１階ロビー	令和７年　７月　２日～　７月３０日
ＪＲくりこま高原駅オアシスセンター	令和７年　８月　１日～　８月３１日
宮城県庁１階ロビー	令和８年　１月１３日～　１月２３日

※　予算内訳　収入　栗原市４０万　登米市３０万　財団４０万　　計　１１０万円
　　支出　旅費、通信、消耗品、印刷費、諸謝金（賞金等）計　１１０万円

③伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンの実施

美しい湖沼環境を保全するため、クリーンキャンペーン実行委員会と登米・栗原両市の共催により、第６４回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを実施した。

第６４回実施日：３月２０日　参加者数：５９４名　ゴミの量：４８０kg

＜クリーンキャンペーン実行委員会＞

伊豆沼・内沼自然保護協会、伊豆沼漁業協同組合、内沼観光物産協議会、迫川上流土地改良区、伊豆沼沿岸土地改良区、宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

※　予算内訳　収入　財団　　計　５万円
　　支出　保険料　印刷費　　計　５万円

④バス・バスターズの活動（ブラックバス駆除ボランティア）

伊豆沼・内沼では、オオクチバスの影響によって沼から姿を消してしまった希少魚ゼニタナゴの復元を目指す「ゼニタナゴ復元プロジェクト」の一環として、ボランティアバス・バスターズ」の協力を得て、オオクチバスの駆除活動を２００４年から行っている。

駆除作業：５月下旬～６月下旬　作業回数：３回(増水により２回中止)
参加延べ人数：７４名

⑤調査研究・普及啓発事業

伊豆沼・内沼の自然環境の保全管理のため、東京大学などの各種研究機関やシナイモツゴ郷の会などの各種団体との連携を密にし、調査研究活動を行った。

９本の論文を掲載した伊豆沼・内沼研究報告第１９巻を発刊したほか、サンクチュアリセンターニュースやホームページを活用し、情報の発信等に努めた。

1　調査・検討会への参加状況

年　月　日	団体名
令和７年　４月１１日	河川技術プロジェクト打合せ（WEB）
４月１５日	環境省打合せ
４月２４日	東北大学宇野研究室魚類調査
４月２４日	環境省打合せ（WEB）
５月　９日	栗駒山麓ジオパーク保護・保全部会
５月１３日	第１回栗原市環境審議会
５月１４日	宮城県自然保護課打合せ
５月２１日	環境省打合せ
５月２１日	(株)学研打合せ
５月２８日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会総会
６月　５日	東京大学（海津准教授）ヒシ刈りロボット（～６月８日）
６月　６日	ジオパーク学術研究等奨励事業研究助成審査会
６月　６日	斉藤氏ため池調査
６月１７日	宮城県環境対策課水質関係打合せ
６月１９日	登米市文化財課打合せ
７月　２日	登米市横山不動尊現地視察
７月　４日	自然保護課打合せ
７月　８日	大崎市文化財保護課打合せ
７月１１日	東北大学宇野研究室打合せ
７月１１日	石巻専修大学打合せ
７月１６日	宮城県環境政策課打合せ
７月１７日	魚取沼調査
７月１８日	伊豆沼・内沼ワイズユース情報交換会
７月２３日	第２回栗原市環境審議会
８月　６日	宮城県自然保護課打合せ
８月　７日	山形大学（横山教授）調査
８月　９日	水位調整打合せ
８月１７日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ
８月１９日	登米市環境課打合せ
８月２２日	第３回栗原市環境審議会
８月２２日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ
８月２７日	外来魚被害防止対策事業第１回検討委員会（WEB）
９月　３日	宮城県環境対策課インターンシップ
９月　４日	栗駒山麓ジオパークプロジェクト会議
９月　４日	宮城県自然保護課打合せ

	９月　５日	東京大学（海津准教授）調査
	９月１１日	栗駒山麓ジオパーク打合せ
	９月２９日	希少野生動植物保護対策に係る打合せ
	９月２９日	山形大学（横山教授）調査
	１０月　１日	河川リバフロセミナー
	１０月　１日	(株)伊藤園打合せ
	１０月　３日	宮城県自然保護課打合せ
	１０月１０日	自然共生サイト
	１０月１０日	自然保護課打合せ
	１０月１５日	東北農政局ヒアリング
	１０月１５日	宮城県農村防災対策室ため池対策班打合せ
	１０月１５日	栗原市建設課打合せ
	１０月２８日	自然再生協議会学識者会議
	１１月　４日	宮城大学（茅原教授）打合せ
	１１月　４日	県水環境会議（WEB）
	１１月１２日	自然再生協議会全国大会（一関市）
	１１月１７日	遠野の景観委員会
	１１月２０日	東北地方ダム管理フォローアップ委員会（福島県）
	１１月２１日	東京大学（水野准教授）調査
	１２月　３日	モニタリング 1000 陸水域分科会（WEB）
	１２月　９日	酪農学園大（小川准教授）調査
	１２月１７日	登米市環境審議会
令和８年	１月　８日	世界ジオプロジェクト推進会議
	１月１４日	自然再生協議会沈水部会
	１月１４日	宮城県人事課打合せ
	１月１６日	東北農政局打合せ
	１月２１日	登米市環境審議会
	１月２２日	栗原市環境審議会
	１月２８日	リモートセンシング打合せ
	１月２９日	ワイズユース情報交換会
	１月２９日	自然再生協議会事務局会議
	１月２９日	環境省打合せ
	２月　３日	自然再生協議会打合せ（WEB）
	２月　７日	自然再生協議会
	２月　９日	宮城県生物多様性地域戦略推進会議
	２月１３日	ジオパーク関係 NPO ヒアリング
	２月１９日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ
	２月１９日	環境省打合せ
	２月１９日	福島大学（福島教授）調査
	３月　６日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ（WEB）

３月１１日	栗駒山麓ジオパーク学術研究助成成果報告会
３月１３日	DNA 分析打合せ（WEB）
３月２６日	栗駒山麓ジオパーク保護・保全部会
３月２６日	世界ジオプロジェクト会議

２　共同研究及び研究援助
(1)環境省東北地方環境事務所（鳥インフルエンザ対策）
(2)北里大学（ゼニタナゴの生態研究）

３　出前講座の開催状況

開催日	団 体 名	テ ー マ	参加者数
７月１５日	栗原市立若柳小学校	伊豆沼の自然について	７３名

４　企業による環境保全活動（社会貢献活動）
(1)トヨタグループ６社合同　　６月２８日　１６０名
(2)トヨタ自動車東日本株式会社　　９月２７日　　２５名
(3)トヨタ自動車東日本株式会社　１０月１８日　　２２名
(4)株式会社伊藤園　　１０月２５日　　２２名
(5)豊田合成東日本株式会社　　１１月　９日　　４５名

５　スワンプロジェクト
市民科学に貢献するため、財団や浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館、ドルイドテクノロジー社（中国）が主催するスワンプロジェクトを推進した。これはオオハクチョウとコハクチョウにカメラ付きＧＰＳロガー（スワンアイズ）を装着し、渡り鳥を追跡する国際共同プロジェクトである。このプロジェクトでは、位置情報に加えてハクチョウ目線の画像をほぼリアルタイムで見られるほか、ホームページで位置や画像情報を公開している。市民が観察記録をＸ（旧ツイッター）に投稿することで（#SwanEyes）、記録が蓄積されていく仕組みで、これによって市民によるハクチョウ見守り体制を構築した。令和８年５月現在、Ｘのフォロワー数は３，３００人を超え、多くの市民の関心を集めている。

６　みらいへつなぐいきものフェスタへの協力
ラムサール４０周年記念事業として、１１月１日に県主催の「みらいへつなぐいきものフェスタ」を県サンクチュアリセンターで開催し、魚の観察会や探鳥会などの講師をはじめ、スタンプラリーの実施や缶バッチの作成などで支援した。この日だけで７３０名の来館があった。

７　「伊豆沼・北上川下流域等の生態系ネットワークとその生態系機能」の研究
東北大学等との共同研究で、伊豆沼･内沼の生態系を周辺水域との関係性や水位変動の観点から評価することを目標としている。令和７年度は、沼と周辺河川における魚類の移動・回遊生態の調査を実施するとともに、衛星画像を用いて水生植物の被覆と水位変動との関連性を評価した。

※　予算内訳　収入　県（生態系）、北上川ネット、財団　　計　３２６万円
　　支出　給料、社保、消耗什器、消耗品等　　計　３２６万円

⑥ラムサール４０周年記念事業

１１月１日に宮城県が開催した「みらいへつなぐいきものフェスタ」、１１月２日に宮城県伊豆沼･内沼サンクチュアリ友の会が開催した秋穫祭への支援のほか、体験講座や写真展を記念事業として開催した。
また、伊豆沼･内沼４０周年の歴史を一冊にまとめた記念誌「自然と人間の共存をめざして」を作成し、県内市町村、関係団体ほか国内ラムサール登録湿地に配布している。
１２月２３日には、宮城県と共催でシンポジウムを開催し、東京大学樋口広芳名誉教授の基調講演「世界の自然と自然、人と人をつなぐ渡り鳥」や当財団職員や築館高校自然科学部の事例発表、「みんなで守る伊豆沼・内沼～未来へつなぐ、地域と自然のちから」をテーマにパネルディスカッションを行い、夕方からの４０周年記念レセプションでは、長年当財団に貢献いただいた、当財団の前理事長、評議員、理事、職員に感謝状の贈呈を行った。

※　予算内訳　収入　財団　　計　２００万円
　　支出　旅費、消耗品、印刷製本費、賃借料等　　計　２００万円

☆　自主事業収支

（単位：千円）

自主事業区分	収　入	支　出	収　支
自然体験講座	３８０	３８０	０
フォトコンテスト	１，１００	１，１００	０
クリーンキャンペーン	５０	５０	０
調査研究・普及啓発	３，２６０	３，２６０	０
ラムサール４０周年	２，０００	２，０００	０
合　　計	６，７９０	６，７９０	０